

雪のある 暮らしを 楽しもう！



全国の県庁所在地の中でも2番目に降雪量の多い都市・札幌では、雪害や除雪の問題など悩みや危険の多い冬の生活。しかしその反面、身近に雪がたくさんあることで、人々は暮らしの中に多くの豊かさも創り出してきました。札幌には、雪に親しみ、雪を楽しむために活動している市民活動団体が多くあります。知っていますか？札幌の雪を楽しむNPOのはなし。

雪像づくりの魅力を 市民へ、世界へ

私は6年前に知り合いの方から誘われて活動に参加しました。初めて参加したときも「いらっしやいー」「今日は寒いからこれを着るといいよ」など優しい声掛けをたくさん頂きました。子ども連れでも参加できるので、安心して参加することができます。私たちの団体は他世代、他業種の人たちが集まっているのでとても幅広い人間関係を結ぶことができます。雪像づくりは当日の飛び入り参加も歓迎しているのですが、外国の観光客の方が参加することも多くあります。

また、私たちは「子どもからお年寄りまで見て分かる、楽しめるものを」というコンセプトを持って雪像を作っています。雪まつりは子どもからお年寄りまで幅広い層が親に来るので、雪像は誰もが楽しい気持ちになれるように工夫しています。



そして、雪像づくりの大きな魅力の1つに「失敗がない」というのがあります。何回でもチャレンジできるし簡単に修正できるので、まずは自分のやりたいように好きなように取り組めるのが最大の魅力です。「雪なんて・・・、寒いから・・・」と思っている札幌市民にこそぜひ参加して頂きたいです。一度雪像づくりを体験すると、外に出るのがきつと好きになるはず。これからも温かい家族のような雰囲気や、雪像づくりの大切さを伝えていくので、皆さんもぜひ参加してみてください。



全員で力を合わせて作った迫力のある雪像。誰でも気軽に参加ができる

大倉 綾さんとちほちゃん

101人の会

「さっぽろ雪まつり」にて高さ5mほどの中雪像の製作活動を行っている市民ボランティア団体。活動には子どもからお年寄り、そして札幌市民から海外の観光客まで、誰でも参加できる雰囲気となっている。

✉ nobuhiromukai_0924@yahoo.co.jp
 http://www.facebook.com/101sapporo

スキーを通じた心身の健康と シニアライフの充実

私たちの団体はスキー技術の向上を目標として設立されました。活動を通じて徐々に「人とのつながりや集団としての結びつき」を大切にしていこうになり、それがアルゴの財産となっています。スキーを基礎から学びますが、競技ではなくあくまでもレクの1つとして位置づけ、「無理せず・競わず・心地よく」をモットーに活動しています。

山を滑る爽快感や達成感、景色や雪の美しさ、自分が上手くなっていく楽しさなどスキーにはたくさんの魅力があります。そして、それらを仲間と共有するのは何にも代えがたい宝物になります。

また、私たちは四季を通じてスキー以外にもさまざまな活動をしていきます。パークゴルフ、サイクリング、自然観察、小旅行などが人気で、活動を



左から名誉会長 廣井 弘さん、会長 齋藤 信義さん、事務局長 光井 征夫さん

シニアスキーアカデミー アルゴ

スキーを生涯スポーツとして位置付け、活動を通じて心身の健康増進を目指す、魅力あふれるシニアライフの醸成を図っている団体。団体名のとおりシニアの人たちが活動しており、平均年齢は72.7歳。会員68名のうち、11人がスキーの指導員スタッフとして活動している。

☎ 011-812-4804
 ✉ m-masa0-321@jcom.zaq.ne.jp



スキーを通じて団体内の交流を深めている。どんなレベルの方でも気軽に参加することができる

通じてメンバー内の交流を図っています。

日々の活動が、冬場にスキーをするための体力をつくり、ケガ防止にもつながるため、皆さん積極的に活動しています。今後もスキーを中心にいろいろな活動を通じて交流を深めようと考えています。

1回1回の活動を大切に、「今しかたかたら今やろう！」の精神で活発に活動をしているので、興味を持った55歳以上のシニアの方はいつでもご連絡ください。スキーの技術は全く問いませんので、一緒に楽しく活動していきましよう。

スポーツレジャーとして 雪山を楽しむために

最近山岳エリアでのスキーを楽しむ「バックカントリースキーヤー」が増えています。雪や雪崩のことをあまり知らずに雪山に入ってしまう人が結構いらっしやいます。当会では毎年1回「北海道雪崩講習会」を行い、「雪崩に遭わない知識」と「方が「雪崩に遭ってしまった時お互いを助ける知識」として、装備や道具、気象の話、雪山の観察方法や仲間と行動する時のポジションングなどの訓練をしています。

雪崩が起こる危険斜度は30度弱〜40度くらいで、一見気づかない所にもリスクの高い場所があります。大量降雪時やその直後にそういう所へ近づかないのももちろんですが、これからは過去の事故情報と併せて、日々山に入った人の情報も広く一般の方と共有できるWEB上のマップを作ることも考えています。

日帰りできる所に雪質の良いパウダー



講習会は今年23回目、これまでの受講者数は延べ1,000人以上。スキー初心者から雪山ガイドさんやプロのレスキューの方まで、冬に山に入る全ての人が対象

代表 吉成 久和さん

特定非営利活動法人 北海道雪崩研究会

冬の山岳スポーツを振興するため、雪崩の学術研究に取り組み、雪山における雪崩事故防止のための講習会や広報活動などを行っている。

✉ petegari1736@gmail.com
 https://www.facebook.com/北海道雪崩研究会-622163167875743/

第23回 北海道雪崩講習会
 平成29年11月26日(日)～平成30年1月28日(日)
 ※11/12(日) 申込締切
 http://h-nadare.com/





まち文化研究所

つかだとしのぶ
主宰 塚田 敏信さん

1950年赤平市生まれ。札幌鶴路高校教諭を経て現在藤女子大学等非常勤講師。「まち文化研究所」主宰、「銭湯倶楽部」代表。町並み、商店街、銭湯、市場、食堂、地域雑誌等の「まち文化」を研究。高校図書館の実践で平成19年度文部大臣表彰。「いらっしやい北の銭湯」ほか著書多数。イベント主催、講演会講師などで活躍。



この人にズームアップ

編集ボランティアスタッフが市民活動を支える“人”に焦点を当てて取材するコーナーです。

足元の文化資産としての「まち文化」の魅力を掘り起こし、記録し、その意味や価値を伝える活動を続けている「まち文化研究所」主宰の塚田敏信さん。今回は多岐にわたる「まち文化」の魅力を「銭湯」に焦点をあてて話をうかがいました。

——今日お持ちの本は？
塚田 1982年から釧路北高校の授業で町の様子を調べ、レポートを出してもらいました。するとある生徒は、自分の家の周囲300軒の屋根の色、壁やドアの色を調べました。そこから家が建ったころの流行りの色などが見えてきます。彼らの親世代も知らなかった町の歴史と様子が具体的に見えてくるわけです。1984年以降は班ごとに調査し、原稿をまとめ印刷か

——最初に銭湯との出会いと「まち文化研究所」の設立の経緯をお聞かせください。
塚田 私は札幌育ちですが、教員になって釧路北高校に赴任して初めて札幌という永年住みなれた町を意識しました。住み続けると町は空気が違うもので、特別に意識しないものなんですね。地形、建物、気候、歴史、町はそれぞれ違います。釧路赴任直後は家族と観光気分分周遊の観光地巡りをしましたが、すぐに飽きてしまった。そこで釧路という足元の町を見ると、いろいろ興味あるものが見えてくるわけです。ところが、この町をよく知ろうと思って市町村史のような行政発行の資料を読んでも、行政、企業、公共施設の歴史ばかりで、銭湯のような身近なものほど記録がないことに気づきました。

——塚田さんは銭湯の実情を一番よくご存じの方ですが、銭湯の現状をお聞かせください。
塚田 30年前、生徒に「銭湯に行ったことがある人は？」と聞いたら、その時点ですでに1割に満たなかったんです。町なかの銭湯は内湯の普及と、規模や施設の充実度の高いスーパー銭湯に客を取られて苦戦を強いられています。もしなんの手も打たなければ銭湯は絶滅するかもしれません。もちろん銭湯の経営者たちも経営努力はしています。1970年代中頃からは家族風呂を備えた銭湯が話題になりました。銭湯をやめてデイクエア専門の施設に転換したケースもありますし、保育園などの入浴体験に取り組み銭湯もあります。ただなかなか一般の人たちに伝わってこないのが残念です。

——塚田さんが考える銭湯生き残り戦略は？そのモデルとなる銭湯があれば教えてください。
塚田 私が日本でとにかくすごいと思っている銭湯の一つが道北の中頓別町にあります。それは「黄金湯」という銭湯ですが、ここは二度つづいた後に札幌在住の元看護士Wさんが行政の支援を受けて再建に取り組んで成功した事例で、多くのヒントが詰まっています。例えば、銭湯で一番お金がかかる燃料は「森のかげらプロジェクト」というアイデアのもと町の有志に間伐材を集めてもらい、常時ストックしています。常に集客と宣伝を兼ねて開いているイベントは、脱衣場スペースを利用したフリーマー

——「黄金湯」の成功の要因はどこにあるのでしょうか？
塚田 Wさんの個性によるところはほとんど大きいと思いますが、同時に彼女を支える町の人たちの支援の輪が大きいと思います。また中頓別には銭湯が「黄金湯」1軒なので、横並びの規制が少なく、思いきった手を打てることも強みです。しかし、肝心なことは「黄金湯」の成功の単なる真似ではなく、成功のエッセンスを学び取り、町の人々が自分たちで考えることだと思っています。同時に社会の中で銭湯がどういう役割を果たしてきて、この先どういう役割を果たすべきか、その点を常に押さえておく必要があります。

——「黄金湯」の成功の要因はどこにあるのでしょうか？
塚田 Wさんの個性によるところはほとんど大きいと思いますが、同時に彼女を支える町の人たちの支援の輪が大きいと思います。また中頓別には銭湯が「黄金湯」1軒なので、横並びの規制が少なく、思いきった手を打てることも強みです。しかし、肝心なことは「黄金湯」の成功の単なる真似ではなく、成功のエッセンスを学び取り、町の人々が自分たちで考えることだと思っています。同時に社会の中で銭湯がどういう役割を果たしてきて、この先どういう役割を果たすべきか、その点を常に押さえておく必要があります。



まち文化研究所

その土地で育まれた営みのかたちであるさまざまな「まち文化」の魅力を掘り起こし、活動を通して「まち」のあり方を発信している

tsukanou@xb3.so-net.ne.jp
https://www.facebook.com/matibunka

(取材担当：神山、赤松)

みんなの市民活動相談

最近寄せられた市民活動に関する相談をご紹介します。

そうか！「会議」はこうすればよかったんだ

齋藤正明【著】
マイナビ新書



図書紹介



会社向けに書かれたコンサルタントからの提言ですが、会議の種類や人数、事前の準備、進行の仕方などを具体的に説明しており、明快です。決めるなら4人で30分、というのは私にも新鮮でした。実行してみたいアイデアが一杯の一冊です。

市民活動相談員
吉田 三千代さん
(さっぽろパブリックサポートネットワーク)

代表は会社で言うと上司にあたり、意見が出にくくなるのは無言の圧力がかかっているのかもしれない。いろんな会議なのでしようか。報告が主なのか、いろいろ意見を出すブレインストーミングなのか、「これを決める」という会議なのかによっても進行が違います。
「定例会」の場合はパターン化する傾向があると思いますが、報告はメールなどで手短かに済ませておき、課題を3つほどにしぼると話しやすくなるでしょう。進行役は自分の意見を言うのではなく、いろいろな意見を出せる場を作る必要があります。

Q

会議がうまく進められません。意見がたくさん出ることもありますが、しーんとしてしまう場合もあります。司会進行を代表がやっているせいでしょか。

NPO法人 仕訳処理ハンドブック

岩田聡子・林孝行【著】
清文社



図書紹介

NPO法人等にて、日常的に発生する取引事例について、勘定科目や仕訳の方法について解説しています。また、NPO法人会計基準にも準拠した内容にもなっていると法人税や消費税等の税務についても解説されています。よって、会計の初心者から実務経験のある会計担当まで、日常の会計処理を行う際に役立つ一冊かと思えます。

税務・会計相談員
瀧谷 和隆さん
(北海道税理士会 税理士)



「産目録」「貸借対照表」及び「活動計算書」を作成し、それらを事務所に備え置くと共に所轄庁に提出しなければならぬと規定されています。しかし、それらの様式については、特に規定されていませんので、企業会計原則に準じて作成してもNPO法に違反しているとは言えませんが、営利企業用の会計ソフトでは、NPO法人では使えない資本金等の勘定科目が設定されていたり、活動計算書ではなく損益計算書と出力されたりしますので、会計ソフトの科目設定や決算書の出力様式等を変更した上で利用した方がいいでしょう。

Q

NPO法人の決算書を株式会社等の営利企業用の会計ソフトで作成しても問題ないですか？

インターネット新時代の法律実務Q&A(第3版)

田島正広【監修・編集代表/編著】
日本加除出版



図書紹介

インターネット社会のさまざまな問題についてQ&A方式によって、事例・回答・専門的解説がコンパクトにまとめられています。ブログやSNSなどは、活用の方法によっては、権利侵害の加害者にも被害者にもなりうる危険がありますが、情報管理や対応策など網羅的な記載があり、インターネットを活用する際には参考となります。

法律相談員
福岡 宏保さん
(NPOのための弁護士ネットワーク 弁護士)



活動の様子をウェブ上で公開する予定があるのであれば、参加者の承諾のもと写真撮影等を行うことで肖像権などの権利侵害のリスクを少なくすることができます。また、第三者著作物を利用する場合は、著作権侵害のリスクがありますが、公表されている著作物であれば、「出所」や「著作者」の明示をするなど、著作権法上の「引用」として評価されるものであれば適法とされます。

Q

NPOの活動内容をウェブ、ブログ、SNS等で公開したいのですが、何か注意しなければならぬことはありますか？

A

よく問題になるのは、写真・動画・新聞や書籍などの掲載・引用などによる権利侵害の危険です。具体的には、「人格権」「肖像権」「プライバシー権」「著作権」といった権利です。

このコーナーで紹介した図書は、札幌エルプラザ公共4施設1階の情報センターで借りることができます。

市民活動団体紹介

札幌市市民活動サポートセンター登録団体を紹介します。
このコーナーは編集ボランティアスタッフが担当しています。

あさぶ亜麻保存会

麻生町の町名は、むかし亜麻の茎から繊維を採る工場があったことから名づけられました。それほど麻生町と亜麻とは深いつながりがあります。

そこで、この魅力ある町にかつてあった亜麻工場の歴史を伝えること、また町の名前の由来である「亜麻」を通して麻生地区の人たちの交流をはかることを目的として「あさぶ亜麻保存会」が2011年に結成されました。

この会では、亜麻の栽培をし、咲いた花を街路ますに植えたり、種を配るなどの活動をしています。また、亜麻の糸を用いてコースターを織るなど、麻生ならではの作品作りにも挑戦しています。毎年10月ころには亜麻そば祭りが開催され、打ちたての亜麻そばを食べることが出来ます。

ところで、最近メディアによる札幌市内で住みたい町ランキングが発表され、麻生は堂々の5位となっています。なかなか人気がある町のようにです。みなさんも、ふらりと麻生を訪ねて、麻生の良さを再発見してみませんか。

大平



和光小学校の児童たちとの植栽の様子

☎ 070-5048-4050 (喜多)

🌐 <http://asabuama.com>

日本ノマド・エジューケーション協会

本の良さを伝えるイベント団体、日本ノマド・エジューケーション協会は、2012年に設立され、主として二つの活動をしています。一つは本好きが本を紹介しあつてつながら「フリオリオバトル」です。「この本、知ってもらいたい！」と表現しようとするとき、どう面白かったのか、自分に向き合います。その上で自分の言葉で表現することで、自分に自信もついてきます。高度で知的な作業でありながら、とても楽しいひとときを参加者みんなが共有しています。

もう一つは「文学サロン」です。こちらはプロの作家を目指すワカモノが集い、作品を批評し合う会です。文学サロンを原点に、札幌をクリエイター集団がでてくる活気ある街にしたいと思ひ、活動しています。他にも多数の読書イベントを開催しています。本を通して、ステキな出会いと有意義な時間を過ごしてみませんか？

藤本



文学サロンメンバーと協会代表の藤本さん(左奥)

☎ 050-3557-1392 (藤本)

✉ info@nomad-edu.net

🌐 <https://www.facebook.com/nomad.education/>

北海道の労働と福祉を考える会

札幌では最も古い野宿者調査・支援団体である北海道の労働と福祉を考える会は1999年に設立されました。当初は北海道大学教育学部が母体でしたが、現在は学生のみならず社会人も共に活動しています。

主な活動として、路上生活者にパン等を配布しながら相談に乗る「夜回り」を毎週第1、2、3、5土曜日の午後7時から行います。また、年2回程度の「炊き出し」があります。他には、年1回の人数調査、生活保護のスムーズな申請手続きの補佐や病院への同伴、脱路上生活者支援活動があります。

幅広い支援に取り組むために、反貧困ネットワーク北海道への加盟や、札幌市ホームレス相談支援センターJOIN等との連携も取っています。取材を受けてくれた学生さんの貧困へのまっすぐな姿勢を見て、こちらも何かをしなればと思わずにはいられません。貧困をもっと身近に感じ、行動していきたいなと思います。

赤松



年2回行われる炊き出し中の様子

☎ 090-7515-8393 (事務局)

✉ info@roufuku.org

Organic Lien

「オーガニックを通して、食の大切さや楽しさを多くの人に知ってもらいたい」「食を通じた出会いの場、交流の場を作りたい」という思いを持った学生さんが、今年の2月にスタートさせたばかりの団体です。(ちなみに、団体名の「Lien」とはフランス語で「絆」という意味です)

これまでに「塩麴を作ってみよう」「有機野菜で作る本格フレンチ」などのテーマで、レストランのシェフや有機野菜を扱う八百屋さんをゲストに招いた体験型のイベントを実施しています。参加者は、学生、若手の社会人が多く、楽しみながら食の大切さを学び、新たな絆を作っており、中には、イベントの常連さんから団体の事務局メンバーになった人もいます。

代表の斎藤さんは、栄養学を学んでいる学生で「同世代の若い人に、もっともっと自分の食べているものに関心を持ってほしい。『オーガニックな生き方とは何か』を考えるきっかけを提供できればと思う。これからも、かたくなしくない、楽しい食の企画を考えているので参加をお待ちしています」と話してくれました。

M

特定非営利活動法人 若年者の学びと就業を支援する会

若者に進路選択の機会を作り、対話を通して支えたいという思いから2017年2月にNPO法人を設立。具体的に経済的な悩み、精神的な悩み、不登校やひきこもりやネット依存を抱えた若者のさまざまな相談に寄り添い、学びの機会を提供し、進学や就労、資格取得の情報提供を行う事を主軸として活動しています。

活動の一環として、公立通信制高校や私立通信制高校、ソーシャルワーカーなどが参加する合同相談会を定期的に開催したり、2017年4月より不登校の子どもの話し相手の有償ボランティアを募集したりしているそうです。大人たちとの交流を通して、『今日一日(こう)いうことがあったんだよ。とても楽しかったんだ』と思ってもらい、大人たちには、子どもたちとの交流を通して自分の成長の機会になることをコンセプトとしていること。

これからの未来を担う若者たちにとって、支えになることができるよう、有意義な活動を続けていきたいと語ってくださいました。

藤本

コトノコロ、コトの森。

「哲学カフェ」を中心に活動している団体です(月1回程度、場所は不定)。喫茶店を主な会場とした哲学カフェでは、お茶を飲みながら、あるテーマについて自分のことばで話し、人の話を聞くのが基本です。

取材をしたときのテーマは「シアワセってナンだろう?」。呼びかけに応じて集まって来た参加者が「シアワセ」から思い描いたキーワードをひとつ紙に書き、それについて自分の実感や経験から出てきたことばで説明し、聞いている人は自由に質問します。約2時間ひとつのテーマについて少人数でじっくり対話をする中で、自分の考えが深まったり、変化をしていったり。なにげない会話が哲学に変わっていく、そんな場を提供するのが哲学カフェです。

このほか、「哲学を実感する読書会」「アートをしながら哲学してみる」などの活動も行っています。気になる方はホームページをご覧ください。

伊藤、赤松



シェフを招いてワイワイ楽しい料理教室

✉ organic.lien@yahoo.co.jp (事務局)

🌐 o-lien.wixsite.com/organiclien

🌐 <https://www.facebook.com/Organic-lien-378936405813269/>

🐦 <https://twitter.com/Organiclien>



体験学習会で地域の子どもたちとの交流も行っています

☎ 080-4046-1616 (井戸沼)

✉ npo.todokeba@gmail.com

🌐 <https://todokeba.jimdo.com/>



哲学カフェの様子。リラックスした雰囲気なかで対話していきます

✉ kotokoro.kotomori@gmail.com (たんご)

🌐 <https://www.facebook.com/KotoKoro.KotoMori/>

お知らせ information

さっぽろまちづくり活動 情報サポートサイト まちさぼ

このサイトは、「札幌市所管のNPO法人」「さぼーとほっと基金登録団体」及び「札幌市市民活動サポートセンター登録団体」の団体情報を一元化したデータベースと団体自らがイベント等の情報を発信できるウェブサイトです。まちづくり活動団体の基本的な情報だけでなく、まちづくり活動団体が実施するイベント、ボランティアの募集、活動報告など、更新された情報を随時提供しております。ぜひご利用ください。



<http://sapporo-machizukuri.com>

札幌市市民活動サポートセンターから

相談窓口

市民活動相談

活動経験豊富な「さっぽろパブリックサポートネットワーク」のメンバーが相談をお受けします。

相談日時 火曜～金曜日（祝日休）
15:00～18:00

税務・会計相談

北海道税理士会所属の税理士が法人会計等の相談に無料でお答えします。

相談日時	11月13日(月)	17:00～20:00
	12月11日(月)	15:00～18:00
	1月20日(土)	9:30～12:30
	2月3日(土)	9:30～12:30
	2月17日(土)	9:30～12:30

法律相談

「NPOのための弁護士ネットワーク」の弁護士が市民活動団体・NPO法人運営に関する法律のご相談に無料でお答えします。

相談日時	11月6日	15:00～18:00
	12月4日	15:00～18:00
	2月5日	15:00～18:00

すべて月曜日

会場：札幌市市民活動サポートセンター相談窓口

※「税務・会計相談」「法律相談」は完全事前予約制です。予約は相談日の前週月曜日までをお願いします。

『マチ×なかNPO』

～聞いて、知って、参加して♪クリスマスちょこっと市～

市民活動団体がマチなかに集い、市民のみなさんに活動をPR！ぜひお立ち寄りください。

日時
平成29年12月18日(月) 14:00～19:00
19日(火) 11:00～16:00
20日(水) 11:00～16:00

会場
札幌駅前通地下歩行空間
北3条交差点広場(西)



昨年度の様子

NPOマネジメント講座

『基礎から学ぶ
NPO法人のための会計講座』

申込期間 平成29年
11月11日(土)～

NPOにとっての会計とは何か、基礎的なことを学びます。

日時：平成29年11月30日(木)、12月7日(木) (全2回)
19:00～21:00

会場：札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室3・4

講師：瀧谷 和隆さん(NPO法人エーピーアイ・ジャパン 理事長)
対象・定員：市民活動に取り組む団体・個人の方で、NPO法人の会計について学びたい方 20人(先着順)

受講料：1,600円(2回分)

アンケート紹介

前号から、情報誌が新しくなりました。デザインやレイアウト、紙質、文字の大きさなど、細部まで検討して作成しましたが、いかがでしょうか？皆さまから頂いた感想・ご意見をいくつか紹介します。

レイアウトが新鮮。
色の使い方もソフトで
温かい感じ。

内容がもう少し
コンパクトだと読みやすい。

定年後、子育て後に時間の使い方を
探している人が手にとれるよう、
もっとPRするとよい。

いろいろな団体が活動している
ことはすばらしい。
2,659団体がそれぞれの目的のために
今後も活動されることを期待します。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。頂いた貴重なご意見は、今後の誌面作成の参考とさせていただきます。

『みんなのしみサボ』では、読者の皆さまから、感想やご意見をお伺いするためのアンケート調査を行っています。下記のWEBアンケートフォームより、どなたでもご回答いただけますので、ぜひ、率直なご意見、ご感想をお寄せください。



<https://jp.surveymonkey.com/r/XT7GVT7>



みんなのしみサボ
編集ボランティア活動の様子

新人の山田です。2時間弱の会議中、内容は盛りだくさん。より良い紙面を作りたい、という熱意があふれる時間です。

『みんなのしみサボ』は編集ボランティアスタッフと札幌市市民活動サポートセンター職員が協力して作成しています。

札幌市市民活動サポートセンター (指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目
札幌エルプラザ公共4施設2階

☎(011)728-5888 📠(011)728-7280

アクセス：JR札幌駅北口より徒歩3分
(札幌駅北口地下歩道12番出口横から直道)



<http://www.shimin.sl-plaza.jp>

<https://www.facebook.com/shimin.sl.plaza>

